

「11月5日は何の日？」

津波防災の日

学校や地域で行われる訓練に参加しましょう！



津波防災ひろめ隊のホームページ

「津波防災ひろめ隊」は、「くまモン」や「ふなっしー」などを中心に、津波から身を守ることをもっと知ってもらうために活動

11月5日は、「津波防災の日」です。日本全国各地震や津波から身を守るための訓練が行われます。みなさんも学校や地域で行われる訓練に参加しましょう。

安政元年(1854年)11月5日、安政南海地震と呼ばれる大地震が発生し、大きな津波が和歌山県をおそいました。この時、浜口梧陵という人物は、暗やみの中で逃げ遅れている人に気づき、安全な高台へと「ひなん」させようと、かりとった稲やわらを積んだ「稲むら」に火をつけることで、津波から多くの村人の命を救いました。村人の命を救うためとはいえ、1年間の大切な収穫である「稲むら」を全て燃やしてしまうというのは、とても勇気のいる行動です。何よりも命が大切ということをおしえてくれるこの話は「稲むらの火」という物語となって今も語りつがれています。



2015年	10月5日	月曜日
平成27年		
福岡管区気象台	〒810-0052	
防災調査課	福岡市中央区大濠 1-2-36	
電話	092-725-3614 (記事) 092-725-3600 (天気相談所)	
メール	fk-kanku@met.kishou.go.jp (ご意見・ご要望はこちらまで)	

「お天気 Q&A」

Q: 台風は南半球ではなぜ時計回りですか? (9月7日号から)
A: 台風の回転は地球の自転からうまれます。地球の自転による回転の力がどのようにかわっているか、下の図で、はれるんになったつもりで考えてみよう。



北半球: 時計回り
南半球: 時計回り
回転の力は、北極で時計と反対回り、南にいくにほど弱くなります。赤道では回転の力はなくなって、南半球にいくと時計回りの力に変わり、南極で時計回りの力が一番強くなります。これが赤道で台風がうまれないこと、北半球と南半球で回転が逆になる理由です。

気象情報へのアクセス

パソコン・スマホから

津波防災ひろめ隊 検索

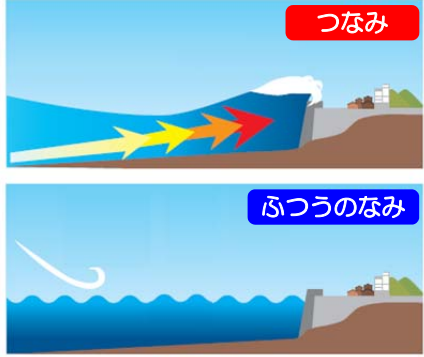
携帯から

防災情報 検索

9月18日の津波は地球の反対側からやってきました

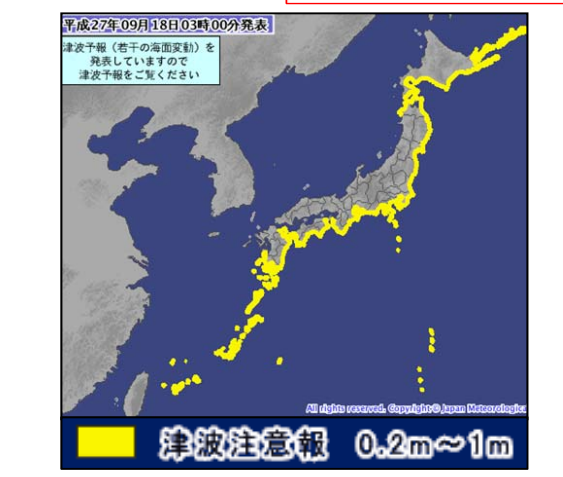
津波注意報

注意報が発表されます。海や川からはなれましょう。



津波は、海の底から海面まで、すべての水が移動します。普通の波と比べて、力がとても強いので、数10cmの津波でも人や物を押し流してしまいます。

9月17日8時ごろ、南米のチリ中部沖で大きな地震が発生しました。それから約1日かけて、太平洋を横断した津波が日本にやってきました。この津波により、全国の海岸で数10cmの津波を観測しました。



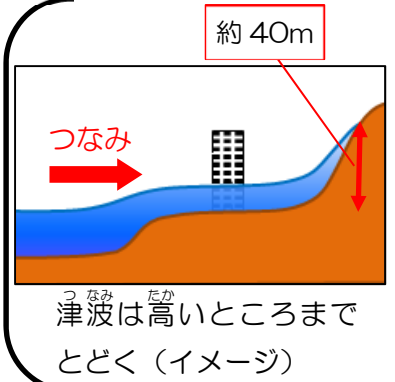
9月18日に発表された津波注意報



- ①地震のゆれを感じたら、すぐに身をまもる(机の下にかくれる)
- ②ゆれが続いている間は身をまもり続ける
- ③落ちて身まわりの危険がないかを確認(あわてて外にとびださない)
- ④ゆれが大きかったときや、ゆれが小さくても津波警報がでたときは、すぐに「ひなん」
- ⑤津波からの「ひなん」は、できるだけ高いところへ。海や川に近づかない
- ⑥津波は、くり返しおそってくるので、津波警報がでている間は「ひなん」を続ける

山や高台、ビルなど、できるだけ高いところへ！ みんなでひなんしよう！

日本で一番大きな津波はなんと！ビルの10階にとどく!?



津波は、普通の波とちがい、ものすごい力で陸地の高いところまでかけあがってきます。日本で一番大きな津波は、2011年3月11日東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)で発生した津波で、岩手県の大船渡市では一番高い場所まで約40mの高さ(ビルの10階の高さ)まで津波がかけあがりました。津波から命を守るためには、急いで、できるだけ高い場所へにげましょう。